

## ▼チアトンカプセル [内]

【重要度】 【一般製剤名】 チキジウム臭化物 tiquizium bromide 【分類】 抗ムスカリン剤 [キノリジジン系]

【単位】 ▼5mg・▼10mg/Cap

【常用量】 30mg/日

【用法】 分3（食前または食後）

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5) 尿中排泄率は低いがFは不明 (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5) 尿中排泄率は低いがFは不明 (5)

【特徴】 胃、腸管、胆嚢・胆道および尿管に対する選択的な平滑筋緩解作用と抗潰瘍作用を示すキノリジジン系抗ムスカリン剤。胃壁の壁細胞に親和性が高いことから胃液分泌抑制作用が強力で、胃粘膜微小循環改善作用を有し抗潰瘍作用を示す。過敏性大腸症候群にも有用性を示す。神経節遮断作用はほとんどなく膀胱に対する作用は少ない。

【主な副作用・毒性】 ショック、アナフィラキシー、肝機能障害、口渇、便秘、下痢、動悸、排尿障害、頭痛、羞明など

【安全性に関する情報】 緑内障、前立腺肥大症、心疾患、イレウス等の患者には禁忌 (1) 羞明等を起こすことがあるので自動車の運転等危険を伴う機械の操作に注意 (1)

【F】 おそらく極めて低く数% (5)

【tmax】 1.4hr (1)

【代謝】 チオフェン環の水酸化の後、主に硫酸抱合体へ代謝される。尿中の主要代謝物はチオフェン環-O-スルフェートで、チオフェン環-O-グルクロナイドはマイナー (1)

【排泄】 尿中回収率 0.6~0.9% [po, 24hr まで] (1) 尿中未変化体排泄率 1~2% [ラット] (1) おそらく大部分は吸収されずに糞便中に排泄される (5)

【CL】 370L/hr (1) であるがおそらく CL/F (5)

【t1/2】 約 1.3hr (1)

【蛋白結合率】 46.5% (1)

【Vd】 不明 (1) Vd/F は 500L/man (5)

【MW】 410.44

【透析性】 資料なし (1)

【TDM のポイント】 TDM の対象にならない

【O/W 係数】 1.00 [クロロホルム/buffer, pH7] (1)

【相互作用】 抗コリン作用の増強する組み合わせに注意 (1)

【更新日】 20180417

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。